

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：牛尾区自治会

開催場所：牛尾公民館

開催日時：平成 28 年 11 月 23 日（水）19 時 00 分～20 時 43 分

参加者：自治会側【地域住民の方 27 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、眞部危機管理部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、浅田金谷南北地域総合課長、駒形戦略推進課係長】

内 容

① 永井自治会長あいさつ

- ・勤労感謝の日にも関わらず、皆様には、今日は昼間にほほえみウォークを実施し健康のために汗を流して夜は車座トークの実施となって、お忙しい中お集まりいただいております。この車座トークは市民と行政の協働を目指すというねらい。市長との意見交換はめったにない機会であるので、市長の思いを聞ける絶好のチャンスでもあり、皆さんの要望や意見を聞いていただくチャンスでもある。
- ・両者でいい地域づくりができていけるように、前向きな意見交換になることを期待する。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・今までは『市長と語ろう』ということでやってきたが、呼んでいただくところと呼んでいただけないところがあったため、この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるといって実施している。
- ・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画などの策定もしていく必要があることから、各地域の課題、さらにはどのような取り組みをしているのかを耳で聴き、肌で感じて、それを市政に反映したいということでもまわっている。また、自分の市政への考え方や方向性を皆さんにお伝えもしている。
- ・TPP はあれだけ頑張ったがうまくいかないようだ。農協にとってはいいかもしれないが 2 国間協議となれば、米国の農産物を押し付けられる可能性もあり、TPP はある意味この程度にという防波堤だったのかもしれない。
- ・アメリカ大統領選挙の結果、イギリスの EU 離脱など世界中の見通しがきかない状態。

■富の分配から負担の分配へ

- ・国も国民一人当たりの借金が 826 万円ということが報道されている中、島田市においても起債残高が 400 億円程度ある。投資だからという理由で、補助

金がもらえるなら、合併特例債が適用される期間に施設等を造ったほうが良いという考え方で進めてきたが、施設等の維持管理には、造った時よりも3～4倍の経費がかかる。高度成長期からのツケが今の国や地方自治体の借金につながっているのではないかと。

- ・島田に限らず、日本中で今、一番課題となっていることは人口減少。今までのやり方は通用しない時代になった。
- ・今までは『富の分配』が可能だった。働く人が多ければ、社会保障費も現役世代が負担することが可能であったが、働く人が少なくなって、社会保障費が増大している状況において、『負担の分配』をしていかなければならない時代となっている。
- ・負担を強いる話は耳障りな話かもしれないが、こうした時代背景も含めて皆様にお話をして、御理解を求めていくことが首長のすべきことであると考えている。
- ・行政も一緒にやるが行政にあれやってくれこれやってくれという時代ではなくなってきている。地域の皆様と行政が一緒になって地域の課題を解決していく必要がある。
- ・地域課題も地域によって様々で、例えば高齢化率だけを見ても、街中はすでに高齢化率が4割であり、川根地域では5割を超える集落もある。

■牛尾区自治会の人口、世帯について

・牛尾区自治会の10月31日現在の世帯数は442世帯、人口は1,299人で、高齢者人口（65歳以上）は410人、高齢化率は31.6%となっている。市の平均が29.5%。平均よりも2ポイント程度高齢化が進んでいる。15歳以下の人口は180人で人口に占める割合は13.9%となっている。市の平均は13.7%なので、学校も近いし、教育環境が整っている、若い世代の方が選んでいただける地域なのだと思う。

■今後の島田市について

- ・『暮らすなら島田』というまちを皆様とつくっていききたい。
- ・市民が住みなれたところで安心して住み続けられるようにしたい。それが行政の役割だと思っている。
- ・島田にはこの地域を良くしたい、この地域でがんばりたいという人達が大勢住んでいるところだと思っている。自分たちのまちや住んでいるところに帰属意識を持っている。隣のまちではただ住むための場所を選んでいるだけで帰属意識がない。
- ・島田市は県内で一番離婚率が低いまち。持ち家率が多い（県内2位）。軽犯罪率が少ないまち。住み良いまちだと考えている。
- ・地産地消で安心した食物がある、大井川の豊かな伏流水もある。自分の地域を愛し、その地域のために何かしら行動したい人が多いまちでもある。
- ・こうした良いまちである島田の10年先20年先に何を次の世代に渡していく必要があるのかをしっかりと議論していく必要がある。
- ・市長になってから心がけてきたことがいくつかある。一つは対立軸を生まない政治が必要。対立軸があることによって島田が力を発揮できない。島田は一つになることが必要である。二つ目は、国の補助金が以前と比べ3分の1程度となっている中で、行政もダウンサイジングしていく必要がある。そのため、職員一人ひとりの効率性、生産性を上げる必要があり、市役所の内部組織改革と人材育成に取り組んできた。三つ目は、若い人たちへの世代交代。

島田は60、70、80歳代の皆様がリーダーシップをとって引っ張ってくれているが、若い人たちがまちづくり、地域づくりに関心を持ってもらい持続可能なまちづくりとなるようにしていく必要がある。

■牛尾山の開削工事について

- ・にぎわい交流拠点の計画も、内陸フロンティアの取り組みも、牛尾山の開削と大きなつながりがある。牛尾山の開削は平成29年度に事業が終了する。通常時の川幅は変わらないが、大雨が降ったときなどには、開削した部分までが川幅になることによって、洪水の危険性が極めて少なくなる。川の流れが変わる可能性があるため、対岸の神座地先にも護岸工事を実施している。
- ・国への要望については、ただ単に造ってくださいと要望してもその要望は通らない。その道路を造ることによって、雇用の創出や渋滞の解消、企業の進出数など数値で効果を表さないとならない。(ストック効果を示していく必要がある。)
- ・開削工事のストック効果として、内陸フロンティア、賑わい交流拠点をあげている。

■賑わい交流拠点の整備について

- ・NEXCO 中日本、大井川鐵道、JA 大井川、島田市の4者が連携し、新東名高速道路島田金谷 IC 周辺に、地域の特産品を集めた販売所や、カフェやレストランなどが入る施設を建設する予定。売り場面積が今のところ1,400㎡ということで、日本一となるマルシェとなる見込み。大鐵は新駅建設も検討している。また、市は、新東名の下に、国の占用許可をとって、約1,000台弱の駐車場を造る予定となっている。(今後、新東名のバス路線を見据えた計画でもある。)
- ・基本計画の内容については、11月から12月ごろにはメディア向けに発表できる段階になっている。
- ・国一バイパスの4車線化に伴い、大代インターチェンジの改良も必要になると JA 大井川五和支店の移転も必要になるのではないかとと思われるので、JAの支店を交流拠点の中に組み込むことも考えている。
- ・奥大井につながる観光の拠点であり、大井川流域の農産品をここに集めて売る。(JAのコンセプトは、農業で地域が元気になるということ。)
- ・最短で平成30年5～6月に着工できる計画で頑張っている。
- ・首都圏からの観光バスの往復500kmの位置として、交流拠点の位置あたりになるので、バスを降りてつながる観光の拠点とすることに加えて、空港周辺のこの地域にも交流人口の増加につながる動線を考えていきたい。
- ・交通網の拠点となる場所がインターチェンジ周辺だと考えている。(交通結節点)
- ・このような拠点となる施設を造ることによって新たな機能を付加することができる。ここには「にぎわい」という機能を付加していきたい。
- ・遠鉄はタイムズ24と連携してバスの利用者にレンタカーを用意し、GPS機能でどのルートを使ったかというデータ収集について、国土交通省が実証実験をしている事例が報道されている。郵便局員が血圧を測定したり高齢者の見守りをする取り組みをしている。民間企業はこのような新たな事業に着手

しはじめています。

■新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について

- ・84haを内陸フロンティア地域として開発することを考えている。農振除外ができるかということと、大井川土地改良区の受益地になっていることへの対応という課題に最大限の力を注いでいる。
- ・この事業が今後の金谷を変えることになるので、力を注いでいる。
- ・何とか今年度中に目途をつけて、にぎわい交流拠点とともに、企業誘致を進めていきたい。(アンケート調査などの結果では20社ほどの引き合いもある。)
- ・牛尾山と一豊堤のあたりから先行的に開発を進められればと考えている。
- ・このあたりは将来的には大きく変わっていくところ。

■金谷地域の取り組みについて

- ・国道1号バイパスの4車線化、菊川インターのフルインター化などは早期に完成できるよう、継続して予算の確保も含めて国に要望をしている。
- ・御前崎港⇒菊川IC⇒大代IC⇒新東名という大災害時における「命の道」がつながるということで国への要望を積極的に行っている。
- ・4車線化に伴い、大代ICのランプも大きくすることによってJAの移転も必要となったことにより賑わい交流拠点の構想にもつながってきている。
- ・国道473号の4車線化について、最初に実施したい箇所として、主要地方道焼津森線と市道島竹下線の交差点の改良を実施していきたい。

■お茶の郷について

- ・お茶の郷は今年の6月1日に県に移管した。島田市が所有するよりも県営のお茶の博物館になるほうが、発信力、財源の確保の点に加え、県知事は、花の都は浜松、お茶の都は是非島田市へという要望をして実現した結果である。
- ・県の話では、再来年の春(仮称)ふじのくに茶の都ミュージアムとしてリニューアルオープンとなる予定。県が所有し全国的にも例を見ない、お茶の専門の博物館ということなので市も連携を図っていきたい。
- ・県が持つことによって情報発信などにおいて効果的であることがあげられる。お茶の葉能などお茶の機能性という分野を追加することも考えられる。
- ・金中跡地から牧之原公園に向う変則の交差点は真っ直ぐになるよう改良し、同時に歩道を整備した。
- ・売店などは、地元の方の雇用で充てていくということを聞いている。

■牧之原公園の整備について

- ・工事期間は11月1日から2月28日までとなっている。(公園内に工事の看板が掲示されている。)

- ・懸案のトイレについては、解体して展望台の部分を今のトイレの方まで延ばしてトイレは道路側に新設する。フェンス、椅子の取替えも行う。
- ・このように公園全体を一体整備することは滅多にない。これは、牧之原公園が夜景 100 選ということに加え、お茶の郷（6 月から県へ移管）、旧金中跡地と一体となった整備に相応しい公園としていくための投資である。
- ・富士見茶屋は行政で手を入れるので、地元の方に運営をしていただきたいと考えている。（地域のことを PR したり観光案内などで活用いただきたい。）

■金中跡地の開発などについて

- ・かつては、コンベンションホール、ツインメッセなどの構想から 8 年の歳月が流れた。交流人口を増やす目的で国費（補助金）をもらって整備をしている場所であるため、その趣旨にあうものにしていく必要がある。
- ・昨年アイデアコンペを実施し、今年是有識者会議を開催し、11 月末には旧金中跡地に係る基本計画がお示しできるのではないかと考えている。
- ・今、マーケットサウンディング（ゼネコン、土地の開発業者、金融機関などに声を掛けて現地をみてもらい、どのような開発に適しているかを、その周辺のティーガーデンシティ構想（風の郷）として指定されている地域ということも勘案して提案すること。）を行った。
- ・我々はロケーションやお茶の郷との連携も考えると素晴らしい場所だと考えているが、マーケットサウンディングでは、商業施設などは難しいという意見をいただいている。こうした中、8 年前の計画（約束＝底地は市が用意してウワ物は県が建てる）が果たせないため今に至っている。県はその約束が果たすことができないことから、民間活力をもって交流人口を呼び込むような施設を造っていきたいと考えている。そこに行政的機能を付加したいと考えている。何もしないでそのままにしておくわけにはいけない。

■金谷庁舎について

- ・金谷庁舎は、合併する時には耐震補強して使うということを聞いているが、前の市長のときにそれはしないということで、支所を 2 箇所整備した。
- ・金谷庁舎のエアコンが昨年壊れ、修理費に 6,000 万円もかかるということだったが、耐震性のない建物に、それだけの投資はできないということで修理はしていない。
- ・金谷庁舎については、現在、おおりに入っている社会福祉協議会が市民会館の向かい側に移転した。（11 月 7 日）。社会福祉協議会が出たスペースに教育委員会を移転する計画である。（年明け）耐震性のない庁舎での業務には課題もあること、しかもあの施設を耐震化することは莫大な費用がかかる。さらに配管等の設備の老朽化が進んでいる。
- ・こうした中で、一度おおりに教育委員会を移していく。金谷庁舎の機能（整備）については内部で検討しているが、一つ方針が決まっていることは、南支所、北支所を今の金谷庁舎の跡地に一本化させていただきたいということ。旧金谷町と旧五和村が合併した融合の地に金谷庁舎があるという点に加え、行政効率も考慮するとあの地に支所を設けていきたい。金谷庁舎の跡地には民間活力を導入して複合施設等を検討したい。議会には、健康・福祉の機能という説明をしているが、市民の皆様の声も聞きながら検討を重ねていきたい。

・今の支所の施設は、地域貢献に値するような施設としての活用を考えていきたい。(この地域では、北支所になるが、五和小学校の放課後児童クラブで活用されていることに加え、皆さんの会合や習い事などで活用をいただいている。)

■市民会館、市役所等の公共施設について

- ・先日、病院のことが新聞に載ったが、建設する場所は、野田の病院の敷地内。東側の駐車場に建設する予定。地上7階建て。
- ・ドクターヘリを屋上に整備し、救急棟、健診センターの建物は残していく。救急棟は一階部分を透析センターとしたい。平成32年度の末までには開院したい。
- ・耐震性のない市民会館については現在、解体は終了して更地になっている。今年度中には舗装をしていきたい。帯桜があるところは、少し広めの帯桜パークのようなものをつくって市民の憩いの場やイベントの場として活用してもらえるようにと考えている。当面の間は、駐車場、賑わい広場、中心市街地の防災の避難地として使っていく予定。
- ・市役所(築53年)、おおり(築34年)、建設検討委員会を立ち上げて(病院の設計に目途がたった段階で立ち上げていく。)市民病院の詳細設計は、今年度内にお示しできると思っている。
- ・市内に25ある小中学校のほとんどが昭和40年～50年代に建設されたため、老朽化も同じ時期となる。教育環境の充実といった点でもある程度の規模が必要であると感じている。
- ・このように、今まで解決できなかったこと、取り組みができなかったことを一つ一つ前へ進めるようになってきている。市民の皆様の中には、進捗が遅いと言われる方もいるが、こうした多くの課題等を丁寧に取り組んで前に進めていることに御理解をいただきたい。

■今後の地域課題の解決に向けて

- ・こういう時代になったら、賢くお金を使わないといけない。賢い選択をしていかなければならない。「集中と選択」を重ねて、地域の皆様と一緒に課題を解決していく必要がある。街の将来に必要なものについてはお金をかけてやっていく。
- ・なんでも行政にお任せは難しい。地域の課題を地域で解決していただくために取り組みが市内でも見受けられる。
- ・地域の助け合いの事例として、ある地域では、500円の券などを活用して、地域の人達で助け合う生活支援のサービスを行っていく計画がある。元気な高齢者はサービスを提供し、たとえ500円でも収入になる。(道悦島の事例)
- ・蛍光灯の取替えや重いものを持たないなど、生活で困っている方を地域で助け合うサービスの取り組み。
- ・高齢者が、公民館で放課後児童クラブを行っているところもある。隣接地域の小学校の放課後児童クラブに児童を送迎することを地域住民が行っている事例もある。(湯日の事例)
- ・コミバスが地域に走っていない地域においては、市がワゴン車と保険とガソリンを負担して、地域の足を確保するために、地域がボランティアなどの運

転手をお願いしていくことも計画している地域もある。このように、地域の課題を自分たちで解決していくことを行政として最大限支援していく。

・それぞれの地域がそれぞれの地域の課題を解決するための取り組みがされている。こうした地域づくりができるかということがこれからにかかっていると思っている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	<p>■賑わい交流拠点について</p> <p>今月の議会だよりの仲田議員の質問の中で、駐車場については9,000万円程度かかるだろうという答弁と農振除外が来年の2月を目途に何とかやれるのではないかという記事が掲載されている。現在、農協が考えているマルシェ、営農経済センター、五和支店については、2.2ヘクタールの中に民家、事務所がある。それが移転しないと、2.2ヘクタールを有効に使えない。その民家等が内陸フロンティアの84ヘクタールの中に移転できるのかという課題もあり、仮に区域外になった場合には、また（移転先の）農振除外が必要になる。そうするとまた事業が凍結する可能性がある。（事業が遅れる可能性がある。）</p>	<p>●そこのお宅に組合長と私と直接そういったお宅にお伺いして御説明申し上げている。その中で、反対があつて事業進捗に影響があるという懸念はない。</p>
1-2	<p>■移転先によっては、まだ長引く可能性があるのか。</p>	<p>●仮に84ヘクタールを白地にできたとしても、農地転用をしなければならぬ。次の定期除外までそのままであれば計画がないとみなされてしまう。したがって、市にとっても覚悟がいる案件である。新東名の駐車場は市がつくることになる。（占用許可をとる。）</p>
1-3	<p>■高架で大鐵と473号を跨ぐことになる構想だが、国の許可が必要になる。そうするとまた時間がかかる。SLも新金谷ではなくその新駅から発車することになるのではないかと思う。</p>	<p>●SLの発着は新金谷のままだと思う。</p>
1-4	<p>■市も覚悟がいるというが、市が何をどうやって応援してくれるのか。</p>	<p>●それはこれからまさに、膝を交えた大きな折衝があると考えている。何度も国に行つて図面を広げて説明している。（歩道橋で跨ぐことも含めて。）</p>

1-5	<p>■農協も移転は消極的ではない。一部批判的な者がいるということを知っているが。</p>	<p>●確認したがそうではなかった。(本人と話をした。)</p>
1-6	<p>■移転することは既成事実として考えている。何年後に動かなければいけないことについて先手を打って出るということになる。</p> <p>マルシェについても、藤枝は恵庭市との提携をしており、JA道央と提携した中で、海の物も山の物も全てマルシェに集約して、一般の農家の方も出荷してもらって収益をあげてもらいたい。市もどういうことで応援していただけるのか。</p>	<p>●歩道橋、駐車場の問題に加え、公的な詳細設計が出てきた時に、公的機能を付加していくことのやり取りもあるだろうし、モータルコネクト（交通結節点）の仕掛けなどによる付加価値を高める機能をつけていくことを考えている。</p>
1-7	<p>■マルシェも1,000人規模の出荷者がほしいという中で、JAの営農指導をしていく必要があることは認識している。市も積極的に応援してほしい。</p>	<p>●農協の皆さんが視察に行った今治では、契約農家が20年で1400軒程度となった。それだけ時間がかかったともいえる。</p> <p>島田は、お茶やみかんといった主要作物はあるが、はば広くたくさんはつくっていない。儲けるために、農家の皆さんの自助努力も必要であるので話を詰めていきたい。</p>
1-8	<p>■今治では年商23～25億円で、90歳くらいの高齢者の農家もパソコン管理で商品の補充なども行っている。そう簡単にあの規模まではできないと承知はしている。(食堂は地場の産品によるもの。)</p>	<p>●バスでの日帰り観光は往復500kmという基準になってから、川根へのバスが激減した。賑わい交流拠点であれば首都圏から500km以内なので、あそこで降りて電車で奥に入ってもらいたい。こうした連携も視野に入れていきたい。</p>
1-9	<p>■中日本もETCで降りた場合の料金のカウントを変えない方法を考えているようで、場所的にも計画も良いと思う。</p>	<p>●ETC2.0であるが、そういう計画をもって今後も進めていきたい。</p>
2-1	<p>■国道473号の4車線化について</p> <p>主要地方道焼津森線から先行して事業着手することについて、竹下の通りの拡幅をすることを聞いているが。</p>	<p>●県が事業実施するときに同時に拡幅をしていく計画をもっている。</p>
2-2	<p>■最近の話で信号機ができないと聞いている。お金がかかるので、公安委員会ができないと聞いている。市が協力してもらわないという話を警察の署長から聞いている。消防署の前の信号機も旧町では約1億円を町が負担している。</p>	<p>●私は大鐵との信号との連動と聞いている。(警察ではないと思うが。)ここに課題があることは聞いている。大鐵と話をする機会が近々あるので、この話は直接してみたいと思う。</p>

2-3	<p>■あそこが一番危険箇所である。</p>	<p>●難しい。大鐵の資産なので、税金を投入することに対する市民の皆さんの理解が必要。大鐵がどう考えているかを聞く必要がある。</p>
2-4	<p>■大鐵は昔から金を出さない。全国からSLを見に来る観光客がいるのに、線路は草だらけで見苦しいと思わないかを見ていた。</p>	<p>●大鐵はそれをきれいにする余裕がないので、地元の皆さんの御協力をいただいているのだと思う。例えば、笹間渡では、花を植える活動をしている。もちろん市も苗を提供したり、大鐵と地域と協力をして植栽している。様々な御意見もいただいているが、沿線ずっとそのような状態の中で難しい面がある。</p>
3	<p>■賑わい交流拠点に新駅をつくることについて 五和駅と新駅が近くなるが、五和駅がなくなるということか。</p>	<p>●地元を守って、育てていただいている駅であるので大鐵の社長もあのままにしていきたいということを聞いている。</p>
4	<p>■住宅敷地について 子どもから相談された件だが、牛尾は子育て環境がいいので住みたいとのことだが、土地を探してもない状態だった。(空宅地がない) 若い人が少ない、子どもも少ない、企業も少ないという課題もあるが、宅地がなくて家が建てられないという問題もあるのではないか。農地を持っていても容易に転用できない。六合もいいがこういう地域が環境にはいい。自治会でも人を増やしたいと思っているが、その一方で人が増えない課題もあるので何とかならないかと思う。</p>	<p>●川根も人口減少に歯止めがかかっていないが、地域に住むところがないということが課題である。 内陸フロンティアの中では、住まいのゾーンがある。(生活環境保全ゾーン＝優良な住宅地としてのゾーン)を設定している。 市は空き家バンクに取り組んでいる。これだけ人口が減って、放棄宅地、空き家が増えている現状の中で、新築するのかという課題もある。</p>
5	<p>■コミュニティ活動について コミュニティ活動に対する理解度について、東部の職員と島田市の職員とに大きな差がある。市の職員のコミュニティ活動に対する理解が低いことを感じている。市長として市の職員への教育をお願いしたい。</p>	<p>●具体的には三島市のことだと思う。三島の事例については十分に認識しており、民間との連携ができていることが特徴。近隣からの市民団体が施設にあるコピー代にしても三島でも沼津の住民でも同じ。同じことを地域交流センター歩歩路でも取り組みをはじめている。そこに携わる人として中間支援(市民団体と行政をつなぐ役割)する機能を入れていくことを来年度から計画している。</p>
6-1	<p>■産業振興について 産業振興についての市長の考え方を聞きたい。</p>	<p>●企業誘致も大事ではあるが、地元の中小企業への支援が必要である。 この4月に「島田市産業支援センター」をオープンさせた。年間1,200件の相談を見込んでいたが、10月末で1,650件となっている。年間では当初の目標の倍くらいの件数になると考えている。農業支援、産業支援とし</p>

		<p>て国から「島田式」といわれている。経営の相談、起業、創業の相談、補助金の相談、融資の相談、異業種のマッチングによる新たな製品（商品）開発の支援、企業同士の連携の相談、農業経営の相談など多岐にわたっている。市外の方の相談もあるほど盛況である。一番多い相談内容は販路拡大となっている。あらゆる相談にパッケージとして、その相談内容の専門家をそろえて対応している。</p> <p>農業については、ぎりぎりのところまで来ていると感じている。</p> <p>市の取り組みとして、耕作放棄地対策として、内閣総理大臣賞を受賞したり、専門の支援員を農林課に配置すること、また、来年は出口の戦略として販売戦略として専門員を配置する予定。現在、西原地区の茶園の集約に取り組んでいる。若者が取り組んでくれているが、彼らが成功する営農というものに行政は支援していかなければならない。金谷の若い人たちは勢いがある。法人経営などの農業を育てていかなければならないと感じている。日本の農業は家業である。年間で200万円とかのぎりぎりの状況である。年金つぎ込んでやっている状況である。今では農協も全量買取りはやらない。努力していいものを作らないと売れないという時代である。そういうことを考えると補助金の功罪もある。これからは本気でやる人に集約していく時代になるのではないかと思っている。</p>
6-2	<p>■市はお茶がんばる課があつて、今は係になっている。藤枝市はお茶振興課を立ち上げているようだが、係と課の差があるのではないかと感じているが。</p>	<p>●藤枝は推進室だと思う。島田市も来年4月に推進室とする。</p>
7	<p>■市の最終処分場について</p> <p>契約が切れるため、市として今までできていたものが民間業者に委託せざるを得ないと聞いている。こうした場合、ゴミの処分費用がアップするのではないか。市民としてごみ減量に努めなければならないと思っている。その一環として、キエーロについて、平成28年度の市の環境の目標としてキエーロを推進しようとしているが、牛尾区でも推進して</p>	<p>●しまだ環境ひろばで自治会を指定して実験の取り組みをしている。</p> <p>生ゴミの減量化は市にとっても課題であるので、キエーロの普及については市の方でも検討する。</p> <p>最終処分場については、県の許認可の期限が今年度末となっている。これを更新するためには地権者全員の同意が必要。市は裁判で前面敗訴という結果となった。控訴せずに和解させていただくことでお話を継続させて</p>

	<p>いる。補助は購入費の2分の1となっている。しかしながら実績が数えるくらい。環境課からも芳しくないと聞いている。</p> <p>また、牛尾区では雑紙の有効利用を推進している。キエーロの本体そのものを市の負担で、土を個人負担という自治体もある中で、そうすれば市への貢献も大きいと思う。市民も協力できるところは協力していきたい。</p>	<p>いただいていたが、6人反対地権者がいて、行政に対する長年の不信感からいい返事をいただけなかった。不信感を払拭するために力を注いできた。例えば、災害がれきの放射線濃度の測定をしたが、放射線濃度は島田市の濃度と同等またはそれ以下であった。またゼオライト（放射線を遮断するシート）でくるんだ。さらに、水や空気線量の測定データも立会いの下に実施しているが、ボタンのかけ違いでこういうことになってしまうという教訓である。自前の処分場を持っているのは近隣自治体では島田市だけ。外に出したほうが処分費は安い。候補地について探すのをあきらめたわけではないが、候補地とした6箇所は様々な課題があつて難しいことに加え、市民の皆様はそういう施設が来ることに関してはピリピリしているので、適地を選定することは難しい状況である。</p> <p>雑紙の資源化は進める必要があるが、個人情報が入った紙は資源化することに抵抗がある方もいる。一方、古着の資源化は予想以上に資源化できていると感じている。</p>
<p>8-1</p>	<p>■地域と行政の関わりについて</p> <p>市長の話を知ると色々なものが見えてくる。地域が知りたい情報は、面と向かって話をしていく必要があると感じている。地域と密接な関係の中で、地域がどれだけ力をつけるかといった点では、市長の代弁者（職員）が地域に散らばって、地域の皆さんと話をすることによって、地域ができることはなんだろうかと事を動かしていくと、職員と同じレベルのものができてくる。コミュニティを作り上げていく必要があり、それは職員だけではできるものでもない。施策を広めるための施策は人材育成が必要。農村部では農振の関係で家を建てたくても建てられない。こうしたことから、内陸フロンティアは島田市にとって大きな賭になる。</p> <p>こうした重要案件については、特に情報交換ができる機会を設けていただきたい。</p>	<p>●農振除外の件については、地域性があつて、土地はあるのに売ってくれないということがある。内陸フロンティアに限って言えば、皆さんが土地を持っていてくれないと一気に話は進まない。それは皆さんと市が直接交渉できるようにするためである。</p> <p>地域の力をどれだけつけるかということについては、今年度から六合、初倉の両公民館に正規職員を配置した。大きな期待を込めて送った職員である。2人とも一生懸命働いている。地区の集りや行事に参加して、地域にどっぷりつかってやっている。これまでの公民館にはない新たな機能を付加して、皆さんが使いやすいようになっていけば、社会教育施設である公民館が行政の出先機関になり、地域と行政との連携にもつながっていく。</p> <p>こうしたことがうまくいけば他地域でもやっていきたい。少なくともこの2地区は正規職員を配置して成功だったと思っている。</p>

<p>8-2</p>	<p>■金谷庁舎は合併時に、その後の機能について要望は出しているが、教育委員会が抜けた後、そのまま庁舎が残っているのでは金谷住民としても寂しいので、支所機能統合もあると思うが、支所は高齢者の立ち寄る場所として交流センターは必要な場所だと考える。したがって多角的な機能を有したものとして残していただき、金谷庁舎跡地は金谷のシンボルとして位置づけて施設づくりに取り組んでいただきたい。</p>	<p>●金谷庁舎は、全てを行政が新たな施設を造っていくのかということについては考えなければならないところがあると思う。公的機能を有した民間があそこの価値を見出してくれるかをマーケットサウンディングで見つけていく必要がある。</p>
------------	--	---

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

